



JHAPPY の改善案

2017年3月9日

概要

本報告書は JICA 監修アプリ「JHAPPY（ジェイハッピー）」の利用拡大へ向けた改善案を示すことを目的としている。

敦賀 一平

<http://ippeitsuruga.com/>

CONTENTS

1. 総評	1
2. 利用拡大へ向けた具体策	1
2.1. 匿名性の是非.....	1
2.2. フレンドを増やす仕掛け	1
2.3. チェックインシステム	1
2.4. 投稿場所とエリア検索の関係	2
2.5. ポイント制.....	2
2.6. JICA 職員による業務利用の推進	2
2.7. JICA 職員 OB/OG の同窓会 SNS として活用	2
3. 技術的な改善点	2
3.1. 早急に修正が必要な点	2
3.2. 今後検討すべき点	3

1. 総評

開発援助従事者が集うプラットフォームを作ることによって、知見やネットワークの共有を行う場所を提供する。こうした試みを国際協力機構（JICA）が率先して実施する企画は大きな可能性を感じる。一方、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）が乱立しており、民間企業による営利目的のアプリでさえ利用者を獲得するのが難しくなっているのが現実である。老若男女、誰しもが FACEBOOK、LINKEDIN、TWITTER、INSTAGRAM、NEWSPICKS 等の大手 SNS アカウントを保有している。それ加えて、新規アプリを登録して利用するというのは、ユーザーにとってかなり高いハードルであることは容易に想像がつく。たしかに、このアプリの売りである世界の途上国ニュースを SDGS ゴールごとにフォローできること、JICA が推進することによって日本国内の開発援助関係者へ利用を促すことが容易であることを考慮すれば、ニッチな市場を掌握できる可能性もある。利用拡大には機能面の改善だけでなく、SNS 上で共有されるコンテンツの質がポイントとなると思われる。特に、開発援助関係者が積極的に発信したくなる環境づくりがカギとなるだろう。

2. 利用拡大へ向けた具体策

2.1. 匿名性の是非

JHAPPY の大きな目的の一つは、開発援助の各分野の専門家が情報・意見交換をすることである。しかし、既存ユーザーのほとんどが匿名で登録し、経歴などもわからない状態となっている。FACEBOOK のように世間話に花を咲かせて親睦を深めることを目的としているのであれば匿名でもよいかもしれない。しかし、先の目的を達成するためには、実名かつ略歴がわかるような仕組みが望ましいと思われる。たとえば、LINKEDIN は履歴書を全て見ることができ、NEWSPICKS は各分野の専門家がニュースにコメントすることが売りとなって利用者を伸ばした。JHAPPY もこれらと同様に、実名での運用が目的に合致するのではないだろうか。

2.2. フレンドを増やす仕掛け

JHAPPY で難しいと感じるのは、フレンドをどう探せばよいのかがわからない点である。匿名性が高いことも一つの原因だが、検索して探さなければフレンドを増やせない機能面の問題も大きい。たとえば、LINKEDIN、TWITTER、FACEBOOK などは、電話帳などから友人を探して、「この人を知っていますか？」といったようにアプリ側から提案する機能がある。たしかに、招待する機能があるのは良い。しかし、アプリ側からの提案があった方がユーザビリティは高まると思われる。既存の SNS の友人リストと同期できれば、より使い勝手は良くなるだろう。

2.3. チェックインシステム

新規ユーザーは、「投稿」ではなく、「チェックイン」というシステムに戸惑うかもしれない。「チェックイン」ボタンを押して記事を投稿すると、記事と同時に投稿場所が自動表示される。JHAPPY では投稿場所がポイントなのかもしれないが、どういう意図があるのか、解説が必要かもしれない。特に日本人ユーザーの中には、投稿場所を明かすことを嫌う人が多く、これが足かせとなって利用者獲得に繋がらない可能性もありそうだ。

2.4. 投稿場所とエリア検索の関係

投稿場所が自動表示されるほか、記事の内容に合わせてアジア・アフリカ・ラテンアメリカ等のエリアを選ぶことができる。世界中に関係者が散らばっている JICA らしい面白い仕組みである。一方、エリア検索を行う場合には投稿場所の検索しかできない。むしろ、記事の内容に合わせて指定したエリア（アジア・アフリカ・・・）ごとに記事を検索できる方が役に立つ機能だと思う。たしかに、同じ地域から投稿した人へメッセージを送って仲良くなるきっかけにはなるかもしれない。しかし、カンボジアに関心のある人がカンボジアの記事一覧を検索できる方が利用者のニーズに合っているのではないだろうか。

2.5. ポイント制

SNS 内の様々なアクティビティに対して、ポイントが付与される仕組みは面白い。ただ、ランキングが上がったり、ステッカーがもらえる以外のインセンティブは無いように見える。ポイントがアプリ内でどのような意味を持つのか、解説があると良いだろう。

2.6. JICA 職員による業務利用の推進

現時点の登録者数が 300 人程度と、極めて少ない印象を受ける。一般の利用者にとっては、現時点の利用者・コンテンツが少ないことによって、投稿するのを躊躇う雰囲気がある。まずは JICA 職員の利用を促す方向で、機構内で調整してみてもどうか。たとえば、JICA の持っているコンテンツで流用できるものを転載していくようにできないか。広報室、人事部、JOCV、研究所、事務所、プロジェクトなどを通じ、業務の一環でブログや SNS で広報している部署は多い。各部署が他の SNS に投稿する際、JHAPPY にも同様の内容を投稿するように促すのが良いだろう。追加手続きなしで実現できるはず。

2.7. JICA 職員 OB/OG の同窓会 SNS として活用

JICA 職員に関しては自主退職のスタッフは去る者追わずで、基本的につながりがゼロになってしまう。JHAPPY が退職した職員と JICA との組織的なネットワーク維持に貢献できれば有益である。特に若手職員の中には、退職して民間企業や国際機関で経験を積んで、将来的に JICA へ戻って貢献したいと考えている者も多い。人事部でも退職後のネットワーク維持はできていない。一般ユーザーと分けて、同窓会（Alumni）用のコミュニティを SNS 内に設置するのも一案。

3. 技術的な改善点

3.1. 早急に修正が必要な点

- 表示速度が最大の懸念。海外からアクセスしているせいか、表示に数秒を要する。
- 機能面で特徴的なのは、自分の投稿がフレンドだけでなく全員のタイムラインへ投稿される点。一人が大量投稿すると全員のタイムラインに流れてしまうがこれで良いのか。これで良いのだとすれば、フレンド機能は意味があるか。

- 投稿した記事にコメントが付いても、通知機能が無いので気付くことができない。
- コメントが全文表示されない。
- コメントを表示した後にタイムラインへ戻ると、一番上に戻ってしまう。タイムラインの下の方までもう一度スクロールするのは負担。
- 自分で自分へフレンドリクエストできるが、これはエラーだろうか。
- アプリ内で使用言語を設定することができるが、日本語にしても英語にしても表示は変わらない。

※使用環境：NEXUS 5X ANDROID（言語設定：英語）

3.2. 今後検討すべき点

- 予算が許すのであれば、アプリだけでなく WEB 版があった方が良い。どちらかと言えば、業務に関係のある内容を扱うことが多いアプリだと思われるので、WEB 上で作業したい人も多いはず。ニュースの共有なども WEB の方が操作しやすい。
- 何ができるアプリなのか、直感的に良くわからない部分が多い。解説やチュートリアルがあると良い。
- このアプリでしか触れることのできないオリジナルのコンテンツが何かあれば良い。